

秋田県戸平川・中屋敷II遺跡縄紋柱痕の年代比定

Radiocarbon dating on the jomon building materials of the Tohiragawa site and the Nakayashiki II site

○小林謙一（中央大学）、木村勝彦（福島大学）、米田稯（東京大学）、高橋学（秋田県埋蔵文化財センター）

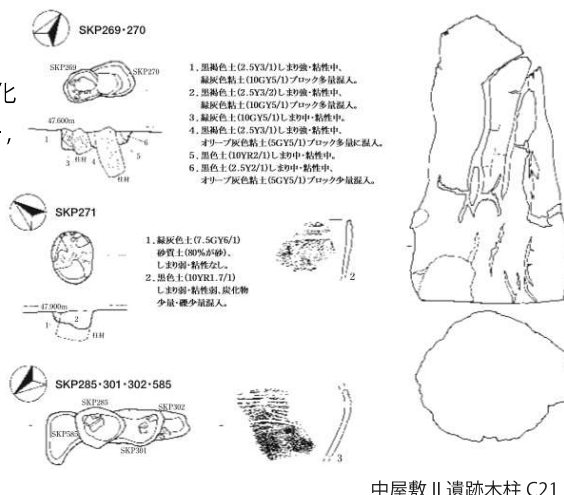
縄紋時代晩期の日本海側の地域には、大型の木柱列・掘立柱建物柱痕が多数発見されている。石川県チカモリ遺跡や真脇遺跡の木柱列や新潟県青田遺跡の建物柱痕が著名であり、その木材年輪試料の炭素 14 年代測定によるウイグルマッチングによって、年代比定がおこなわれている。ウイグルマッチングは、これまで多くの測定が実践されている（今村 2002, 國木田ほか 2006, 坂本ほか 2006）。東北地方における縄紋晩期の建物柱痕も確認されているが、これまで年代測定例がなく、北陸地方の建物との関係が問題とされていた。今回秋田県中屋敷 II 遺跡（秋田県文化財調査報告書第 384 集 :2005）および戸平川遺跡（秋田県文化財調査報告書第 294 集 :2000）の掘立柱建物跡の木柱から複数の年輪試料を採取し、ウイグルマッチングを試みた。

測定結果は表 1 に示す。中屋敷 II 遺跡の C21 木柱については、最外から 1-5 年輪, 11-15 年輪, 31-35 年輪, 51-55 年輪を採取し、山形大学及び東京大学総合博物館で測定した。Intcal13 および Oxcal を用いてウイグルマッチした結果（図 1）、2σ で 2861 ~ 2546cal BP（711-596cal BC）に 90% の確率で含まれる。なお、5 年輪のブロックで測定しているため、最外年の年代は 2 ~ 3 年新しい年代となる。

戸平川遺跡の掘立柱建物跡木柱 2 本は、遺存状態が不良のため最外年輪のみを採取し、山形大学に委託して測定した。C31 は 2750-2710cal BP、C3 は 2760-2510cal BP に含まれる可能性が 95.4% となる（図 2）。2 本の木柱が同一時期に伐採されたと考え、両者が重なる 2750-2710cal BP（800-760cal BC）に含まれる可能性が高いと考える。

日本学術振興会科学研究費助成基盤研究 (B) 「炭素 14 年代測定による縄紋文化の枠組みの再構築 - 環境変動と文化変化の実年代体系化」(課題番号 25284153, 研究代表小林謙一, 平成 25 ~ 29 年度) の成果である。

国立歴史民俗博物館坂本稯教授の多大な協力を得ている。



試料記号	番号	所在地	遺跡名	出土区	分類	細別	部位	時代	測定	14C	AMS δ 13C
AKMB	C21	1	秋田県 中屋敷 II	SKP270	木材	年輪	5年輪 最外	縄文晩期大洞A?	YU-4001	2488 ± 20 BP	-24.25 ± 0.26 ‰
AKMB	C21	11	秋田県 中屋敷 II	SKP270	木材	年輪	5年輪 11-15年	縄文晩期大洞A?	TKA-17448	2433 ± 29 BP	-26.2 ± 0.4 ‰
AKMB	C21	31	秋田県 中屋敷 II	SKP270	木材	年輪	5年輪 31-35年	縄文晩期大洞A?	YU-4605	2444 ± 21 BP	-29.95 ± 0.47 ‰
AKMB	C21	51	秋田県 中屋敷 II	SKP270	木材	年輪	5年輪 51-55年	縄文晩期大洞A?	YU-4606	2460 ± 21 BP	-28.19 ± 0.46 ‰
AKMB	C31	1	秋田県 戸平川	SB-161 掘立-P1	木材	年輪	5年輪 最外	縄文晩期大洞?	YU-4002	2571 ± 20 BP	-27.01 ± 0.20 ‰
AKMB	C32	1	秋田県 戸平川	SB-161 掘立-P2	木材	年輪	5年輪 最外	縄文晩期大洞?	TKA-17449	2566 ± 30 BP	-25.8 ± 0.5 ‰

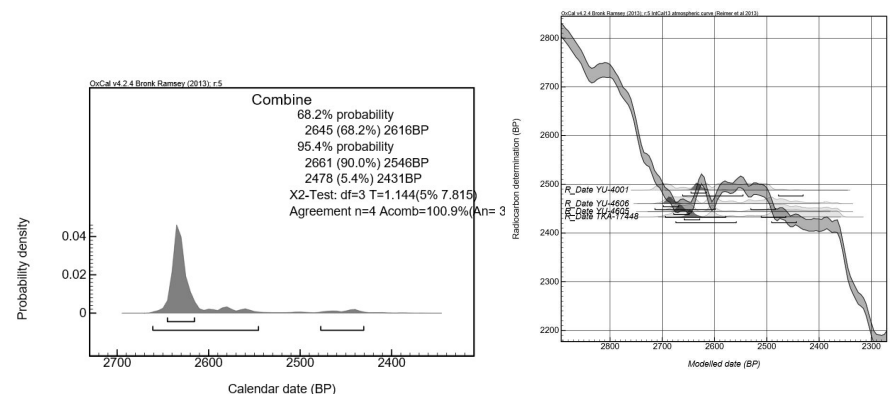
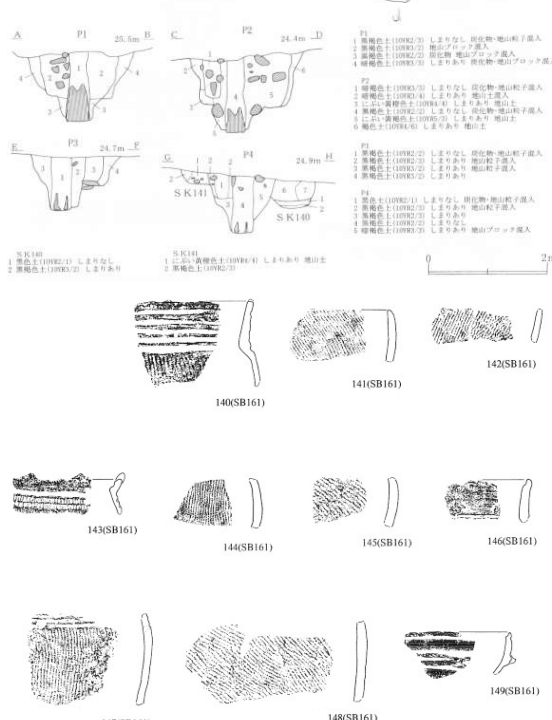
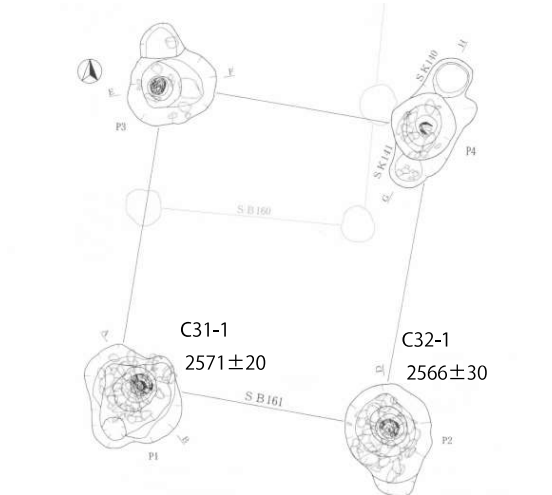


図 1 中屋敷 II 遺跡木柱 C21 ウイグルマッチング 較正年代 (Intcal13) 確率 (Oxcal (Ramsey2013))

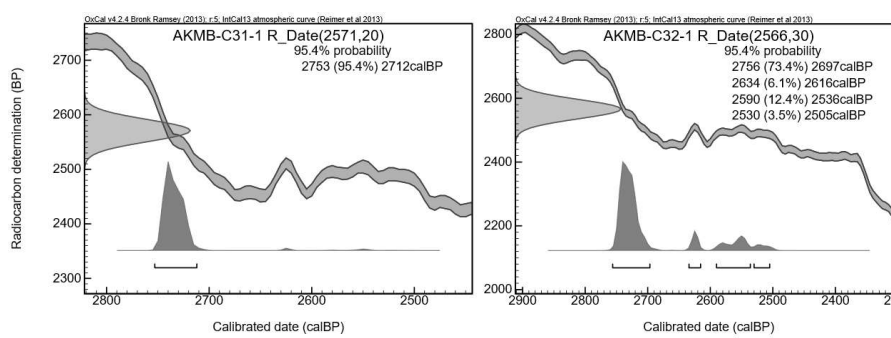


図 2 戸平川遺跡木柱 C31-1 (左)・C32-1 (右) 較正年代 (Intcal13) 確率 (Oxcal (Ramsey2013))

戸平川遺跡木柱 C32-1 (pit1)・C32-1 (oit2)